

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
 ☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>
 第625号 2022年3月13日

鈴木真主任司祭 主日ミサ説教

2022年1月2日 主の公現

マタイ福音書 2章1-12節

「主の公現」…救い主の誕生が世に公に現わされた、という意味です。

『聖書と典礼』の注書きにもありますが、「占星術の学者たち」と訳された元の言葉「マギ」は、ペルシャのゾロアスター教の祭司階級をあらわすもので、「占星術」と言っても今のいわゆる星占いとは違って、天文学に近いかなり高度な学問だったようです。ペルシャからパレスチナは距離的にもかなり離れているわけですが、そんな人たちによって救い主誕生が世に示されます。聖書には「三人」とは書いてないわけですが、いわゆる「三人の博士」のうちに、一人は白人、一人は黒人、残る一人が黄色人種だったということになったのも、すべての民族に救い主の存在があらわされた、という位置付けからでしょう。

しかし、それを知らされた時の権力者、ヘロデ王は、自分の地位が脅かされることを危惧し、なんと救い主抹殺を図ります。福音が示される時、必ずそれに反する要素があらわにされる、ということでしょうか。例えば、イエスが悪霊を追い出すシーンが福音書に時々出てきますが、必ず悪霊の方から「お前が誰だか知っている！我々を滅ぼしに来たのか！」などと反応します。

言わば、救い主であるお方は、人間社会の「罪」

という現実のまっただなかにお生まれになった、ということでしょう。それは、見方を変えるならば、常に神から離れがちに生きている人間たちに、あくまで神さまが寄り添ってくださっているし、とも言えます。わたしたちとは関係のない、どこか遠くでお生まれになったのではなく、まさに罪深いわたしたちのすぐ近くに、いや、そのまっただなか生まれにくださったわけですから。

「神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」(ヨハネ3:16)

イエス誕生の物語を具体的に描くのは、実は聖書の中でもマタイ福音書とルカ福音書だけです。それぞれどちらも大変な状況の中でイエスがお生まれになったことを描きますが、それは神がどれほど「世」を、ご自分が造られたすべてのものを愛しておられるか、を示すことに他なりません。

降誕節の締め括りである「主の公現」を祝うにあたり、改めてわたしたちは、救い主であるお方が世に来てくださった恵みの大きさに、共に目を向けたいと思います。

